氏　名　中村和生(なかむらかずお)

所　属　社会学部

職　種　准教授

[履　歴]

[学　歴]

１９８８年　３月	東京都立保谷高等学校卒業
１９８９年　４月	東京都大学人文学部入学
１９９３年　３月	同上　　社会学科卒
１９９３年　４月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士前期課程入学
１９９５年　３月	同上　　修了
１９９５年　４月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士後期課程入学
１９９９年　３月	同上　　満期 単位取得退学
２０１５年　１月	博士号取得（明治学院大学）

[学　位]

博士（社会学）

[職　歴]

１９９９年	４月	１日	明治学院大学非常勤講師社会学部（２００２年３月３１日まで）
２０００年	４月	１日	清泉女子大学非常勤講師文学部文化史学科（２０１０年３月３１日まで）
２００２年	９月	１日	武蔵工業大学（現東京都市大学）非常勤講師環境情報学部（２０１０年３月３１日まで）
２００３年	４月	１日	明治学院大学非常勤講師社会学部（２００６年３月３１日まで）
２００５年	４月	１日	一橋大学非常勤講師社会学部（２００５年９月３０日まで）
２００７年	４月	１日	明治学院大学非常勤講師社会学部（２０１０年３月３１日まで）
２０１０年	４月	１日	青森大学社会学部専任講師
２０１３年	４月	１日	青森大学社会学部准教授　現在に至る

[所属学会]

日本社会学会、関東社会学会、日本保健医療社会学会、エスノメソドロジー&会話分析研究会

[教育活動]

[担当科目]

社会学理論Ⅰ・Ⅱ、文化社会学、行動調査法、知識と科学の社会学、哲学、
社会学演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

[卒業研究指導]

2020 年度:5 名

2017 年度:3 名

2016 年度:3 名

2014 年度:5 名

[ゼミ指導]

2020 年度:5 名（3 年生）

2019 年度:5 名（3 年生）
2018 年度:7 名（2 年生）
2017 年度:13 名（3 年生）
2016 年度:13 名（3 年生）
2015 年度:25 名（2 年生 9 名・3 年生 16 名）

［研究活動］

［研究テーマ］

- 相互行為能力のエスノメソドロジー的解明
- 多様な専門実践のエスノメソドロジー的解明
- 初等・中等教育の理科教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析

［著書、論文、総説］

［著書］

1, 2015 年 1 月『ポスト分析的エスノメソドロジーの展望と展開――科学実践の理解可能性の探究――』（博士論文）（明治学院大学）

2, 2016年4月『概念分析の社会学２−実践の社会的論理−』酒井泰斗・浦野 茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根(編)(第8章「素朴心理学からDoing sociologyへ――記述の下での理解と動機のレリヴァンス――」（共著：中村和生・森一平・五十嵐素子)、ナビゲーション3)

3, 2017年2月『ワークプレイス・スタディーズ：働くことのエスノメソドロジー』水川喜文・五十嵐素子・秋谷直矩（編）（第3章「「不十分な」助言の十分な達成――電話相談における〈助言者-相談者〉という装置」）

4,（翻訳）2012年10月, マイケル・リンチ『エスノエソドロジーと科学実践の社会学』勁草書房（監訳：水川喜文・中村和生)

［論文］

1, 2015 年「分析的エスノメソドロジーとポスト分析的エスノメソドロジー」『社会学・社会福祉学研究』144 号(明治学院大学社会学部)

2, 2016 年「保健医療の実践のエスノメソドロジー&会話分析研究――録音・録画メディアの利用と臨床への介入的貢献――」（共著：中村和生、海老田大五朗）『保健医療社会学会論集』第 27 号第 1 巻

3, 2017 年「分析的･ポスト分析的エスノメソドロジー、あるいは概念分析」『現代思想』第 45 巻第 6 号

4, 2018年「当事者研究におけるファシリテーター・当事者の実践――共成員性とカテゴリー対を中心に――」（共著：中村和生、浦野茂、水川喜文）『保健医療社会学会論集』第28巻第2号

［学会発表］

1, ″Being facilitator and co-member in a self-directed research of people with mental disabilities,″(Co-authors: Kazuo Nakamura, Shigeru Urano, Yoshifumi Mizukawa), 4th, July,2016, *Atypical Interaction Conference*(University of South Denmark, Denmark)

2, 「Epistemics批判の部分的考察」2017年3月26日エスノメソドロジー&会話分析研究大会（於成城大学）

3, “Scientific Knowledge and Reasoning in the Experiments of Elementary School Classrooms: Instruction in Local Educational Order”(Authors: Yoshifumi Mizukawa, Kazuo Nakamura, Motoko Igarashi / Presenter: Yoshifumi Mizukawa), 3th, July, 2019, International committee of Ethnomethodology and Conversation Analysis(University of Mannheim, Germany)

4.「科学と技術の関係性は学習されるのか？――初等教育における理科実験を題材として――」2019年10月6日第91回日本社会学会大会（於東京女子大学）（登壇者：中村和生、共同発表者：水川喜文・五十嵐素子・東徹）

［学内各種委員］

【全学】入試管理委員

【学部】入試選抜委員（副委員長）

【学部】社会調査士資格 連絡責任者